
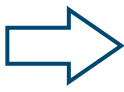


先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/12/01

FOMCに向けたドルの動向に注意

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>		日本の衆議院選挙なども鍵に 予想レンジ: 115.000 ~ 122.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>		原油安が焦点 予想レンジ: 101.500~106.800円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



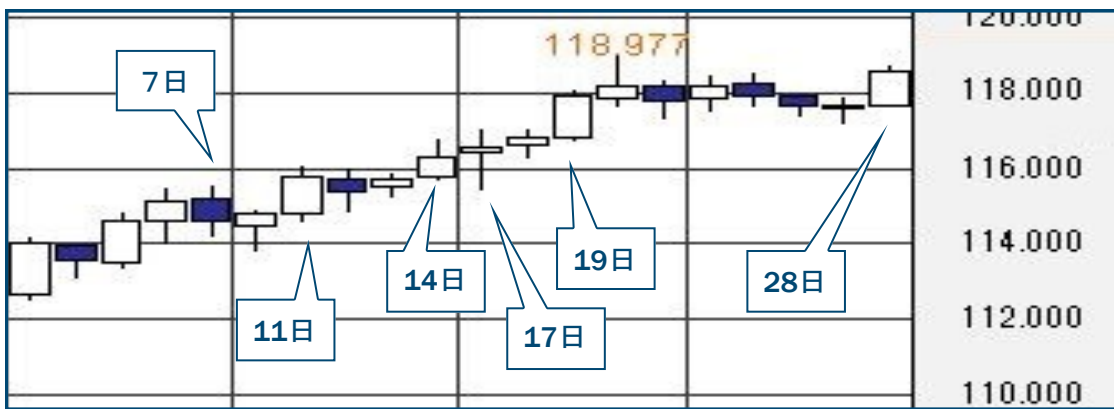
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 11月の推移

11月のドル/円相場は112.567～118.977円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.6%の大幅高(ドル高・円安)となった。

10月末の日銀による追加緩和と年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用比率変更をきっかけに円安が急激に進んだ流れを引き継いで、11月のドル/円は月初からジリジリと上昇。さらに、安倍首相が消費税増税の延期の是非を問うために衆議院解散・総選挙を年内に行う意向を示すと、これを好感して日経平均が上昇した事などもあり、一段と円安が進行した。ただ、下旬に入ると米国が感謝祭(27日)前後で市場参加者が減少し、値動きが鈍化。高値圏でのみみ合いに終始した。



四本値	
OPEN	112.671
HIGH	118.977
LOW	112.567
CLOSE	118.607

7日	米10月雇用統計は、失業率が2008年7月以来の低水準となる5.8%(予想:5.9%)、非農業部門雇用者数(NFP)が21.4万人増(同:23.5万人増)、労働参加率は62.8%と前月(62.7%)から小幅に上昇した。また、NFPは9月分(24.8万人増→25.6万人増)と8月分(18.0万人増→20.3万人増)が上方修正された。ドル/円は発表直前に115.539円まで上昇するも、弱い結果のNFPを受けたドル売りや、早期利上げを煽る結果でないを受け止めた米債券市場で長期金利が低下した事を受け、114.255円まで軟化した。
11日	政府・与党内で安倍首相が年内に衆院解散・総選挙に踏み切るとの見方が強まると、消費税増税が延期されるのでは、との観測を絡めて日経平均が急激に上昇。ドル/円はこれに連れ高した。
14日	米10月小売売上高が前月比+0.3%と市場予想(+0.2%)を上回ると、116.821円までドル高・円安が進行した。
17日	本邦7-9月期国内総生産(GDP)・一次速報が前期比年率-1.6%と予想(+2.2%)外のマイナス成長となった。これを受けて円売りが強まると117.045円まで上昇。しかし、この結果を受けて日経平均が大幅安となり、17000円を割り込むと、115.454円まで下落した。ただ、その後はジリジリと下げ幅を縮小。米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル理事が「FRBの政策は経済データ次第」とするも、「2015年中、おそらく2015年半ばに利上げするのは理にかなっている」「雇用創出の点で言えば、今年は1999年以降で最高の年になりそうだ」等と発言した事を受けて米長期金利が上昇した事も追い風となった。
19日	10月28・29日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において「インフレ期待の低下を警戒する必要」が明らかとなり、ドル/円は一時117.360円まで急落。しかし、来年にFRBが利上げを行うとの市場の見方を変えるような記述がなかった事もあり、公表直後に急低下した米長期金利が下げ幅を縮小すると、ドル/円は反発した。
28日	本邦10月消費者物価指数が前年比+2.9%(除生鮮)と市場予想(+2.9%)通りながらも消費増税の影響分(+2.0%)を差し引くと前年比1.0%を下回った事から、円売り優勢で推移。さらに、27日に決定された石油輸出国機構(OPEC)の減産見送りを背景に原油安が進む中で、ドル買いが強まると、ドル/円の追い風となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.4916%
HIGH	0.5585%
LOW	0.4685%
CLOSE	0.4685%

米10年債利回

OPEN	2.3353%
HIGH	2.3964%
LOW	2.1623%
CLOSE	2.1640%

日経平均

OPEN	16732.85
HIGH	17520.54
LOW	16713.37
CLOSE	17459.85

NYダウ平均

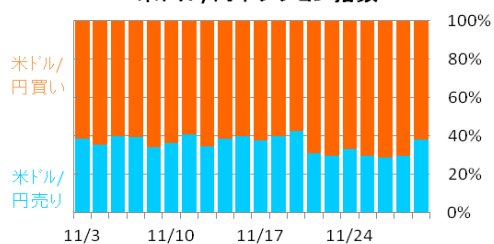
OPEN	17390.90
HIGH	17894.83
LOW	17278.36
CLOSE	17828.24

11月のポジション動向

12月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

米ドル/円ポジション指数



- ・米11月雇用統計(5日)
- ・米11月小売売上高(11日)
- ・日衆議院選挙(14日)
- ・日銀短観(15日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・米7-9月期GDP・確報値(23日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言
- ・急な円安を警戒する本邦要人発言

12月の見通し

11月は、前月からの円安基調に加え、日本の消費税増税が延期される見通しとなった点が追い風となり、上昇した。ここからの日本の要因については、14日に投開票される衆議院選挙の行方になるだろう。連立与党が過半数を取れば消費増税およびアベノミクス継続見通しとなるが、この際の日経平均の方向感に注目したい。連立与党が過半数を取ったところで利食い売りなどによって日経平均が失速するような事があれば、ドル/円にも下押し圧力が掛かる。しかし、これまでドルを買い遅れた向きも多く、下げたとしても一時的なものになりそうだ。一方、その後の「第3の矢」などへの期待から日経平均が堅調に推移すれば、ドル/円はジリジリと上値を追う可能性もある。

米国については、各経済指標を眺めながら、米国の利上げ時期を窺う展開が続くだろう。そうした中で、特に17日のFOMC声明及びイエレンFRB議長の会見内容は注目される。利上げの時期についてヒントがあれば、ドルは敏感に反応しよう。市場の「利上げは2015年半ば、早ければ6月にスタートする」という見方に対し、どのような示唆をするかが焦点だ。早期利上げ期待を煽るような声明内容やイエレン議長の発言があれば、ドル高が進むと見る。

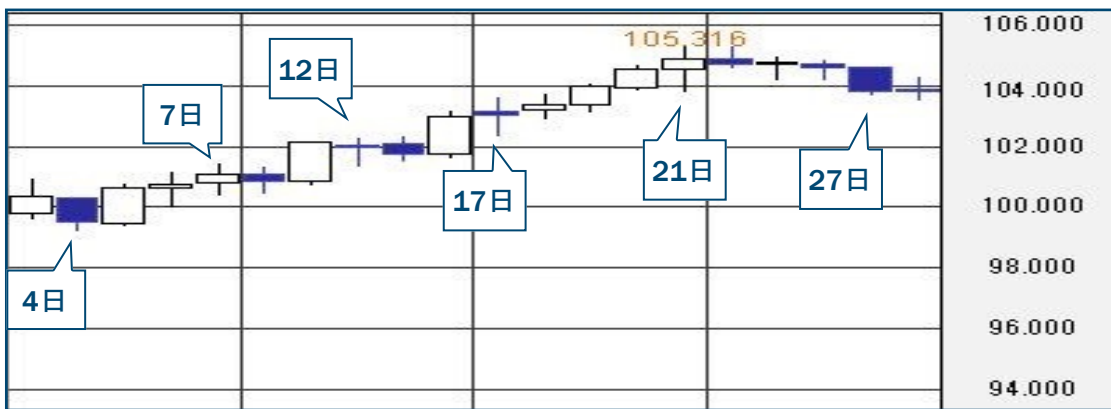
ドル高・円安が継続的に進んだ場合、本邦要人からの円安牽制発言などには要注意だ。足元では麻生財務相や甘利経済再生相などの発言に対する反応は限られつつあるが、安倍首相が急な円安への警戒感を強める発言をすれば反応する可能性は残る。

なお、FOMC後はクリスマス休暇モードとなり、徐々に手控えムードが広がる見通し。11月の感謝祭前後と同様の閑散相場も想定しておきたい。(石川)

(予想レンジ: 115.000~122.000円)

カナダ/円 11月の推移

11月のカナダ/円相場は99.273~105.316円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.1%の上昇(カナダドル高・円安)となった。日銀が(10月31日に)金融緩和を強化した事と、政府が消費増税先送りを決めた事が円安に寄与した一方、加経済の好調さを示す経済指標が相次いだ事がカナダドルを押し上げた結果、カナダ/円は21日に2008年8月以来の高値(105.316円)を付けた。日銀の予想外の追加緩和後に世界的に株価が上昇した事もカナダ/円の上昇を支援した。ただその後は、供給過剰観測から原油価格が大きく下落したため、カナダドルの重石となり伸び悩んだ。



四本値	
OPEN	99.848
HIGH	105.316
LOW	99.273
CLOSE	103.837

4日	サウジアラビアが米国向け原油販売価格を引き下げた事を受けてNY原油価格が大幅に下落。これがカナダドルの重石となり、99円台前半まで弱含んだ。
7日	加10月雇用統計が、失業率6.5%、雇用者数ネット変化4.31万人増と予想(6.9%、0.50万人減)より遥かに強い結果になるとカナダドル高が進行。ただ、同時に発表された米10月雇用統計の結果を受けてドル/円が反落した影響からカナダ/円は伸び悩んだ。
12日	菅官房長官が「消費増税を1年半延期との報道、ありえない」「首相が解散意向を伝えたとの報道、ありえない」などと発言したのに続き、麻生財務相が「消費増税は『待ったなし』」と発言すると、日経平均が上げ幅を縮小するとともに円が買い戻された。ただ、カナダ政府が、同国の2014年GDP成長率見通しを従来の2.3%から2.4%へ、2015年の見通しを2.5%から2.6%へ引き上げた事がカナダドルを支援したため、カナダ/円は下げ渋った。
17日	本邦7-9月期国内総生産(GDP)一次速報が前期比年率-1.6%と予想(+2.2%)を大幅に下回り、2四半期連続での減少となると、瞬間的に円売りが強まり103.60円台まで上昇。ところが、弱いGDPを嫌気して日経平均が軟調に始まると、一転して102.394円まで下落した。
21日	欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が量的緩和の導入に前向きな発言を行った事や、中国人民銀行が利下げを発表した事から、欧米株価や資源価格が上昇する中、カナダドル買い・円売りが活発化。さらに、加10月消費者物価指数が前月比+0.1%と予想(-0.2%)に反して上昇し、前年比でも+2.4%と予想(+2.1%)以上の伸びとなった事から105.316円まで上値を伸ばした。
27日	石油輸出国機構(OPEC)総会で、原油生産の削減見送りが決まると、原油価格が急落。産油国通貨であるカナダドルに下落圧力が掛り、カナダ/円は103.70円台まで反落した。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	2.054%
HIGH	2.093%
LOW	1.858%
CLOSE	1.858%

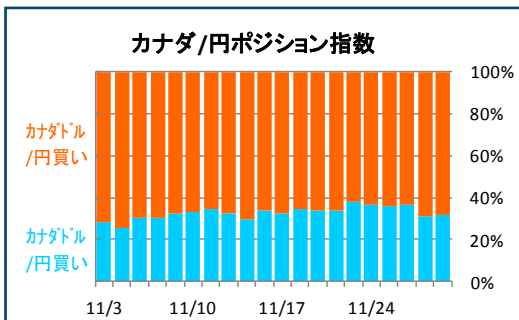
N Y 原油

OPEN	80.59
HIGH	80.98
LOW	65.69
CLOSE	66.15

NYダウ平均

OPEN	17390.90
HIGH	17894.83
LOW	17278.36
CLOSE	17828.24

11月のポジション動向



12月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・加中銀政策金利発表(3日)
- ・11月加雇用統計(5日)
- ・11月中国貿易収支(8日)
- ・11月加住宅着工件数(8日)
- ・11月中国鉱工業生産(12日)
- ・本邦衆議院選挙(14日)
- ・日銀短観(15日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・11月加消費者物価指数(19日)
- ・10月加GDP(23日)
- ・主要国株価・国際商品価格

12月の見通し

11月28日に発表された加7-9月期GDPは前期比年率+2.8%となり、前期の+3.6%こそ下回ったが堅調な伸びを記録。加10月消費者物価指数も前年比+2.4%と、9月の+2.0%から伸びが加速した。経済が好調な米国と景気サイクルの連動性が強い事に鑑みれば、カナダにも利上げ観測が浮上して然るべき経済情勢と言えるだろう。にも関わらず、そうした見方が高まらない最大の理由は、カナダの主要輸出品である原油の国際価格が大きく下落している事にある。一部には、足元の原油価格の水準は、シェールオイルの採算ラインを割り込んでいるとの試算もある。カナダ経済への悪影響が長引く可能性があるとの懸念がカナダドルの重石となっていると見られ、12月のカナダ/円相場の焦点は、原油価格の動向にあるといっても過言ではないだろう。もっとも11月は、円安がカナダ/円の下値を支えた(原油下落の影響を緩和した)格好であり、12月に円相場が続落するかどうかカナダ/円相場にとって重要となる。14日の本邦衆院選の結果はもちろん、選挙前の世論調査の結果なども材料視される可能性がある。衆院選では、自民党の勝利が見込まれるが、これをアベノミクスの信認強化と見るならば、基本的に円安要因となりそうだ。(神田)

(予想レンジ:101.500~106.800円)